

【血液検査】

検査項目	女性基準範囲		男性基準範囲		単位	検査内容等
	下限	上限	下限	上限		
白血球数	3.3	8.6	3.3	8.6	10 ³ /μL	細菌やウイルスと戦う機能があるため、感染症や炎症で増減します。
赤血球数	3.86	4.92	4.35	5.55	10 ⁶ /μL	血液中の赤血球の数です。貧血や多血症の検査に用います。
ヘモグロビン	11.6	14.8	13.7	16.8	g/dL	ヘモグロビンは体に酸素を運ぶ働きがあり、貧血の目安になります。
ヘマトクリット	35.1	44.4	40.7	50.1	%	血液中の赤血球の割合(%)です。貧血、多血症の目安になります。
血小板数	158	348	158	348	10 ³ /μL	出血を止める役割を持つ血球です。減ると出血が止まりにくく、増えると血栓症の原因になります。

【凝固検査】

検査項目	女性基準範囲		男性基準範囲		単位	検査内容等
	下限	上限	下限	上限		
PT活性度	70	130	70	130	%	血液の凝固機能(固まり易さ)を調べる検査の1つです。活性度(%)で表します。
活性化部分トロンボプラスチン時間	24.0	34.0	24.0	34.0	秒	血液の凝固機能(固まり易さ)を調べる検査の1つです。
FDP	0.0	5.0	0.0	5.0	μg/mL	出血傾向や血栓症の診断に用いられます。
Dダイマー	0.0	1.0	0.0	1.0	μg/mL	出血傾向や血栓症の診断に用いられます。

【生化学・免疫検査】

検査項目	女性基準範囲		男性基準範囲		単位	検査内容等
	下限	上限	下限	上限		
総蛋白	6.6	8.1	6.6	8.1	g/dL	多くが肝臓で合成されるため、値が高くても低くても肝臓に何らかの障害があることが疑われます。
アルブミン	4.1	5.1	4.1	5.1	g/dL	栄養状態や肝機能障害の程度を反映します。
総ビリルビン(T-Bil)	0.4	1.5	0.4	1.5	mg/dL	肝細胞が障害されたり、胆汁の流れに障害があると、血液中のビリルビン濃度が上昇します。したがって、肝臓の障害や胆汁の流れに障害がないかどうかの検査に用いられます。
直接ビリルビン(D-Bil)	0.1	0.3	0.1	0.3	mg/dL	
AST(GOT)	13	30	13	30	U/L	肝胆道疾患・心疾患・筋疾患などの障害の程度や経過などを推測するための検査です。
ALT(GPT)	7	23	10	42	U/L	AST(GOT)と殆ど同義的な検査ですが、AST(GOT)に比べると肝障害に特異性が高くなります。
LD(IFCC)	124	222	124	222	U/L	すべての細胞に含まれる酵素です。細胞を障害する病気があると高値になります。
γ-GT	9	32	13	64	U/L	肝・胆道系疾患の指標となる検査ですが、飲酒の影響が大きな検査項目です。
LAP	30	70	30	70	U/L	黄疸の鑑別や肝・胆道疾患の診断や経過観察に用いられます。
コリンエステラーゼ(Ch-E)	201	421	240	486	U/L	肝臓で生成される酵素なので、肝疾患によって肝機能が低下すると検査値が低くなります。
ALP(IFCC)	38	113	38	113	U/L	骨や肝・胆道系に病気があると検査値が上昇します。また妊娠中や成長期にも高値になります。
クレアチンキナーゼ(CK)	41	153	59	248	U/L	心筋梗塞や骨格筋に障害があると検査値が上昇します。
アミラーゼ(AMY)	44	132	44	132	U/L	唾液腺や膵臓に病気があると高値になります。
コレステロール	142	248	142	248	mg/dL	血清中に含まれる脂質の一種で、値が高いと動脈硬化が促進されます。
HDLーコレステロール	48	103	38	90	mg/dL	血液中の余分なコレステロールを運び出してくれるため“善玉コレステロール”とも呼ばれます。
LDLーコレステロール	65	163	65	163	mg/dL	動脈硬化を促進すると考えられており、“悪玉コレステロール”とも呼ばれます。
中性脂肪(TG)	30	117	40	234	mg/dL	数値が高い状態が長く続くと冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)、脳血管障害が生じやすくなります。
尿素窒素(UN)	8	20	8	20	mg/dL	腎機能の指標となる検査です。腎機能が低下すると尿中に排泄されなくなるため血中の値が上昇します。
クレアチニン	0.46	0.79	0.65	1.07	mg/dL	
尿酸(UA)	2.6	5.5	3.7	7.8	mg/dL	主に腎臓から排出されるため腎機能の指標となり、値が高いと痛風や尿路結石の原因にもなります。
ナトリウム(Na)	138	145	138	145	mmol/L	細胞外液に多く含まれ、濃度の異常は脱水症、浮腫、意識障害、嘔吐、痙攣などを引き起こします。
カリウム(K)	3.6	4.8	3.6	4.8	mmol/L	細胞内液に多く含まれ、増加・減少は神経系、筋肉系(心筋、骨格筋、平滑筋)の障害をもたらします。
クロール(Cl)	101	108	101	108	mmol/L	細胞外液に多く含まれる陰イオンで、Na濃度に影響を受けます。
カルシウム(Ca)	8.8	10.1	8.8	10.1	mg/dL	骨の維持に加え筋肉や神経、ホルモン分泌が正常に働くために重要な項目です。
リン(P)	2.7	4.6	2.7	4.6	mg/dL	大部分がカルシウムと結合しており、骨代謝異常や、腎臓、副甲状腺などの病気を調べる検査です。
マグネシウム(Mg)	1.8	2.4	1.8	2.4	mg/dL	細胞内液に多く含まれ、栄養状態や腎機能、副甲状腺などの病気を調べる検査です。
鉄(Fe)	40	188	40	188	μg/dL	赤血球中のヘモグロビンなどに含まれ、鉄欠乏性貧血などで低下します。
グルコース(血糖)	73	109	73	109	mg/dL	糖尿病の診断および経過観察に用いられる検査です。 * 基準範囲は空腹時
C反応性蛋白(CRP)	0.00	0.14	0.00	0.14	mg/dL	肝臓で合成される血清タンパクの一種で、細菌感染や炎症があると検査値が上昇します。
HbA1c	4.9	6.0	4.9	6.0	%	過去1～2ヶ月の血糖値が反映される検査です。